

2 天祐山公田院
仁叟寺

(吉井町神保 1295 ☎027・387・3080)

約500年の歴史を伝える名刹の仁叟寺。1394～1428年(応永元年から正長元年)にかけて、吉井町奥平公田に奥平城主の奥平貞訓が創建。その後、子孫の貞能が寺領を寄進した1522(大永2)年に、

神木のカヤ 樹齢500年超

寺を現在の地に移して本堂を再建、開山したのが同寺のルーツ。

現在は1万坪の広い寺域に25の諸堂塔が整備されている。一度も火災に遭うことがなかった本堂(市指定重要文化財)や、その手前にあるカヤの木(県指定天然記念物)、鐘楼堂(市指定重要文化財)、山門(同)、古文書(同)な

ど多数の文化財を誇る。

ご神木のカヤの木は樹齢が500年以上。太平洋戦争前の落雷で、先端が約5メートルほど折れたが、この木がなければ、本堂に落雷していた可能性が高かったと言われている。

興味深い言い伝えもある。カヤの木は「天宮(天狗)さまの宿り木」と言われ、住職と天狗のやりとりが、江戸時代の地誌『多胡砂子』に記されているという。同地誌の内

容を記した『天祐山仁叟寺誌』によると、寺では毎月28日の朝、大威明王の消災咒(消災妙吉祥陀羅尼のことを指す)百遍を唱えていた。ある月、山伏姿の者がやってきて、消災咒の中止を頼む。自分は毎月28日毎に榛名山へ行き、諸山の天狗と参会するが、仁叟寺の上空を通るとき、消災咒のため翼が弱り、境内の松

で羽を休まなければならず、そのため参会に遅れ、迷惑をかけているからだという。そこで和尚は、やめることはできないが、ひと月で百遍となるように変更することを提案する。天狗は喜び、礼として末世火災鎮護の証である龍の茶杓を住職に贈り、去っていったという。

29、30日に禅の集い
仁叟寺で29、30の両日、「第28回 子供禅の集い」が開か

れる。小学3～6年生を対象にした恒例行事で、子供たちに夏の思い出をつくってもらうのが狙い。

規則正しい生活の中、自然と禅に親しむ企画で、座禅堂、研修道場で、座禅や法話、度胸試しや花火大会などを行う。29日午前11時から受け付けで、解散は30日午後4時ごろ。

会費は3500円。20日までに申し込む。定員約40人になり次第、締め切る。



(左) 500年の歴史を伝える本堂とカヤの木

神木のカヤ樹齢 500 年超

天祐山公田院仁叟寺 (吉井町神保 1295 ☎027-387-3080)

約500年の歴史を伝える名刹の仁叟寺。1394～1428年(応永元年から正長元年)にかけて、吉井町奥平公田に奥平城主の奥平貞訓が創建。その後、子孫の貞能が寺領を寄進した1522(大永2)年に、寺を現在の地に移して本堂を再建、開山したのが同寺のルーツ。

現在は1万坪の広い寺域に25の諸堂塔が整備されている。一度も火災に遭うことがなかった本堂(市指定重要文化財)や、その手前にあるカヤの木(県指定天然記念物)、鐘楼堂(市指定重要文化財)、山門(同)、古文書(同)など多数の文化財を誇る。

ご神木のカヤの木は樹齢が500年以上。太平洋戦争前の落雷で、先端が5メートルほど折れたが、この木がなければ、本堂に落雷していた可能性が高かったと言われている。

興味深い言い伝えもある。カヤの木は「天宮(天狗)さまの宿り木」と言われ、住職と天狗のやりとりが、江戸時代の地誌『多胡砂子』に記されているという。同地誌の内容を記した『天祐山仁叟寺誌』によると、寺では毎月28日の朝、大威明王の消災咒(消災妙吉祥陀羅尼のことを指す)百遍を唱えていた。ある月、山伏姿の者がやってきて、消災咒の中止を頼む。自分は毎月28日毎に榛名山へ行き、諸山の天狗と参会するが、仁叟寺の上空を通るとき、消災咒のため翼が弱り、境内の松で羽を休まなければならず、そのため参会に遅れ、迷惑をかけているからだという。そこで和尚は、やめることはできないが、ひと月で百遍となえるように変更することを提案する。天狗は喜び、礼として末世火災鎮護の

証である龍の茶杓を住職に贈り、去って行ったという。

仁叟寺で 29, 30 の両日、「第 28 回子供禅の集い」が開かれる。小学 3～6 年生を対象にした恒例行事で、子供たちに夏の思い出をつくってもらうのが狙い。

規則正しい生活の中、自然と禅に親しむ企画で、座禅堂、研修道場で、座禅や法話、度胸試しや花火大会などを行う。29 日午前 11 時から受け付けで、解散は 30 日午後 4 じごろ。

会費は 3500 円。20 日までに申し込む。定員約 40 人になり次第、締め切る。